

気象変動に対応した飼料作物の栽培

1 目的

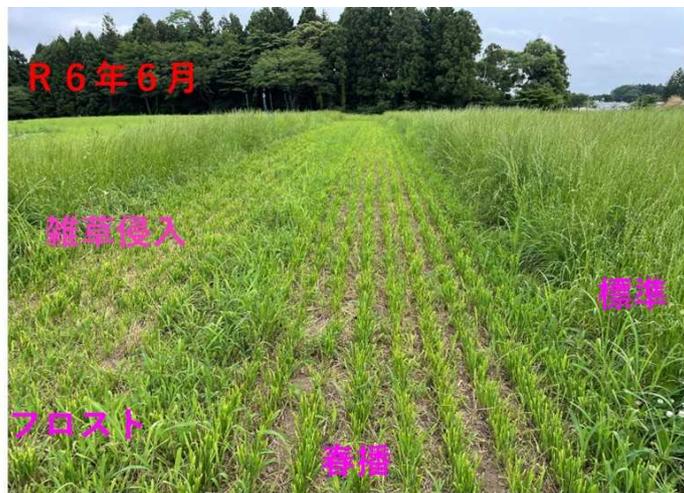
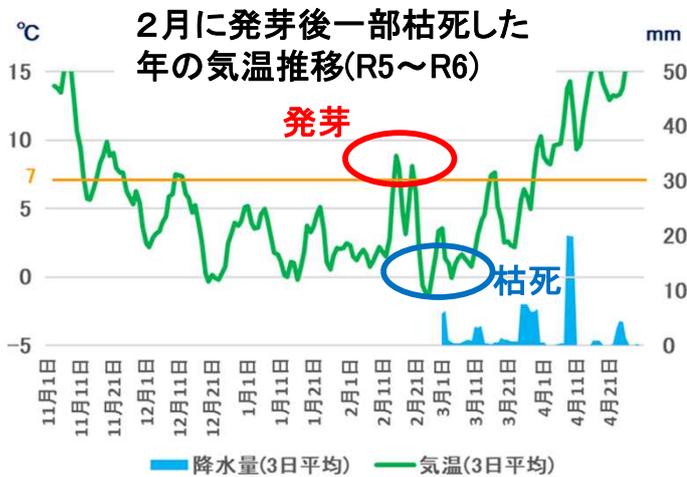
近年の温暖化傾向により、高温、豪雨などの気象災害が増加している。牧草地においても高温による夏枯れで雑草が繁茂し、収量や品質に影響を与えている。一方で草地更新の際に豪雨等で播種時期を逸したりする等の事例も散見される。

そこで、秋の播種適期を逃した場合の栽培体系について検討を行い、良質な牧草を安定して生産できる体系を提示する。

2 研究成果

- ・宮城県でのフロストシーディング(初冬季播種)は冬期の気象条件により、発芽が不安定、発芽しても個体が小さいため夏期高温で夏枯れしやすい等不安定であった。
- ・春播種も同様に不安定であったため、草地更新は適期(9月)に行うこととし、粗飼料が不足する場合等には飼料用ムギ類の春播種などで補うのが適切と考えられた。

フロストシーディングとは発芽に適さず労力競合がない初冬期(7℃以下が継続する時期)に播種し、翌春の融雪水などを活用し春期に労力競合なく発芽させる栽培



推奨播種体系

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
慣行適期	播種・発芽								1番草				
フロスト				播種	発芽			1番草		天候により 越夏不良			
春播種						播種	発芽	1番草					
逸機推奨					飼料麦播種				収穫		牧草播種		

